

# 新商連運動速報

新潟県商工団体連合会

2017年8月1日 No2

ビジネススキルアップセミナー  
～はじめての事業計画書づくり～

45人が参加「現状把握・事業計画書の重要さがよくわかった」「補助金申請に挑戦したい」

新潟県商工団体連合会（民商新潟県連・新商連）と新潟県商工団体連合会青年部協議会（県青協）は7月30日に「ビジネススキルアップセミナー～初めての事業計画書づくり」を開催し、民商会内外から45人が参加しました。

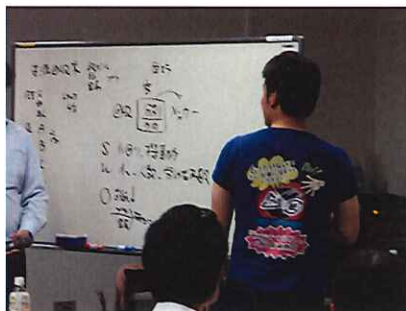
開会のあいさつにたった小林正樹県青協会会長は「私は鋼材販売をやっている。青年部が行った『業者青年実態アンケート』でも『経営の勉強がしたい』という回答が多かった。足元の景気が悪い中、今日は大いに勉強し、経営に役立てよう」とあいさつしました。

講師の上品忍中小企業診断士は休憩をはさみ3時間余にわたって「経営計画ってなんだ」「数字」「マーケティング」「SWOT」「経営計画」「補助金・まとめ」とくわしく講義しました。

「経営計画は『経営方針・目標を明確にする』『自社の強み・弱みが認識できる』等の意義がある」「経営計画をつくったことのある会社の方が売上が上がったという統計がある」と話し、まずは『数字・決算書』の話からですと「決算書のしくみ・売上・固定費・変動費・限界利益」の考え方を話しました。「マーケティング」の定義や具体例を話し、「お客のことを意識するだけでも商売は変わってくる」とお客目線で商売を考える重要性を強調しました。

「SWOT分析」では自社の簡単な分析を参加者全員が行いました。県青協副会長の長崎誠さん（資源回収）は「紙ベースの資源が少なくなるので、プラスチックの運送も行うようにした。また分別の大切さをお客さんに知ってもらうためにTシャツをつくった」と報告しました。

最後に自身も審査員になっている補助金申請の話をした上品中小企業診断士は、「経営計画の作成も補助金申請も、ぜひグループで行ってほしい」「自分1人では強み・弱みもわかりにくいし、グループでの意見交換から新たな気づき生まれ、話すことで他人に伝わるかチェックできる」と締めくくりました。



新商連と県青協は「セミナー」開催に向け5回の実行委員会を開催しました。初めて民商の話し合いに参加した34歳の青年部員は、全実行委員会の話し合いに参加する中で「自分が講師をしている専門学生には起業を考えている生徒もいる。ぜひ彼らにも参加を呼びかけたい」と声をかけ、当日5人の専門学生・先生が参加しました。

実行委員会では、12月に2回目の「セミナー」を開催したいと張り切っています。